

# 語り継ぐ平和への思い

～75年目の夏～

終戦から本年度で75年。長い年月が過ぎた現在も、多くの方が、かつての戦争で負った体や心の傷、あるいは家族を亡くした悔しさや悲しさなど、消えることのない苦しみを背負い続けています。今回は、広島に投下された原子爆弾で被爆した垣内巖さんと、陸軍兵として戦地に赴いた清水溥章さんにお話しいただきました。皆さんも命の尊さ・平和の大切さについて考えてみましょう。

## 太平洋戦争の勃発

昭和16年12月8日、日本は真珠湾を攻撃、戦争が始まりました。その当時、国は「日本は強い！戦争に勝つ！」というイメージを国民に刷り込み、国を挙げて戦意を高揚させるため、日本が連戦連勝し戦争を有利に進めている映像を、全国各地の映画館で放映していました。当時は垣内さんも日本は優勢で、戦争に勝つと信じていました。

## 厳しい食糧事情

戦争が始まってから1年ほどが経ち、垣内さんが小学3年生になると、戦争の影響が生活にも出始め、次第に食べ物もまともに手に入れることができなくなりました。当時は、現在のように満足に白飯は食べられず、主に高粱飯（米の代わりに食べられていた穀物のおかゆ）や、少しの米と大豆のかすを混ぜたご飯を配給してもらい、食べていました。



かきうち いわお  
垣内 巖 さん  
86歳・比和町

垣内さんは昭和9年に三原市で生まれ、3歳のときに父親の仕事の関係で広島市の宇品へ住まいを移し、その後、被爆しました。当時の暮らしや原子爆弾が投下されたときの様子、原爆症の恐怖について語っていただきました。

んは、状況をあまり理解できず、状況を悪化していききました。この頃には、防空壕で一夜を過ごすことも当たり前になっていました。

## 原子爆弾の投下

昭和20年8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下されたとき、垣内さんは小学校に登校していません。閃光とともに、地面が揺れるほどの大きな爆発音が響き渡りました。大変なことになったと、垣内さんは急いで家に帰りました。

両親は宇品の自宅にいたため無事でしたが、4歳年下の妹が、前日から街中に住む祖父母の家に泊まりに行っていることを思い出しました。垣内さんは、父と一緒に妹たちの無事を確かめるため祖父母の家へ向かいました。



妹たちは、原爆の衝撃で崩れた家の下敷きとなっていたところを、近くにいた兵隊に助けられ、防空壕に避難していました。運よく、家の下敷きにならなかったことで原爆の熱線から免れることができ、軽傷で済んだのです。

## 原爆症の恐怖

垣内さんたち家族や親戚は無事再会することができ、8月15日、終戦となりました。しかし、垣内さんたちはその後、原爆症の恐怖に苦しめられることになりました。

原爆症とは、原子爆弾が爆発と同時に放つ大量の放射線を浴びることにより、人の遺伝子を傷つけることで起きる身体の不調のことです。特に子どもたちに大きな影響を与えるといわれています。垣内さんの妹は、原爆症の影響からか髪の毛が抜け始め、一週間ほどで全て抜け落ちました。そんな妹に両親は「せめて女の子らしい服を」と、赤い服を着せてあげました。すると近所の子どもたちが「男が女の服を着ている」と妹をいじめたそうです。また、妹は飛行機を見ると足がすくみ、怯えるようになってしまいました。妹は69歳の時に急性白血病になり、この世を去りました。

また、垣内さんには2歳年上の叔母がいました。当時13歳で、現在の翠町中学校に通っており、原爆が投下されたときは、教師に連れられ、建物疎開（空襲で発生した火災が重要施設へ延焼するのを防ぐために、付近の建築物を撤去する作業）に出っていました。叔母は作業中に被爆し、背中にやけどを負いました。「江波方面の収容所で手当てを受けている」と連絡を受けた垣内さんの父が、叔母を迎えに行き、宇品の家に連れ帰りました。被爆直後は元気なように見えた叔母でしたが、8月末ごろから次第に体調が悪くなり、9月8日、血と膿が混ざったようなものを吐き、亡くなりました。

垣内さんは「私自身いつどうなるかわからないが、常に覚悟はしている」と話します。原爆は今もなお、多くの人々を苦しめ続けているのです。

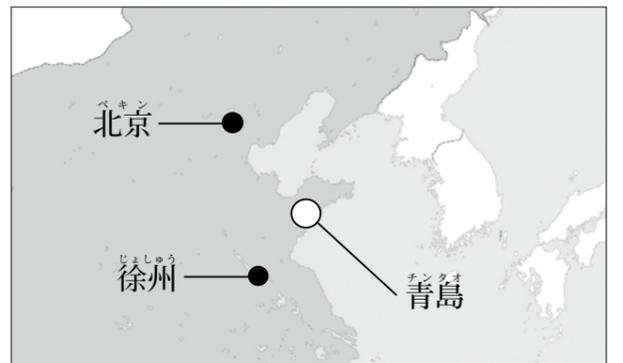
## 次世代を担う子どもたちへ

数年前、垣内さんは平和学習で、比和小学校を訪れました。垣内さんは、平和への願いを込めて、子どもたちに次のようなメッセージを送っています。「戦時中は、まともにご飯も食べられず、勉強をしなくても、勉強をする環境がなかった。私の記憶にある小学校時代の授業は、校庭を耕して芋畑を作ったこと。徴兵され男手のない家の稲刈りを手伝ったこと。竹やりを持ち、先生の『突撃！』の号令でアメリカ兵を想定したかかしを突き刺す訓練をしたことなど。今は誰もが十分な教育を受けられる環境が整っている。頑張れば何でもなれるチャンスがある。子どもたちには目標に向かって、一生懸命頑張ってください」



しみず ひろあき  
清水 溥章 さん  
104歳・口和町

清水さんは、日中戦争に陸軍兵士として従軍しました。計3回召集され、幾度も危ない状況に遭いながらも生還しました。これまで、あまり家族にも話していなかったのですが、当時の記憶を語っていただきました。



### 召集命令

昭和12年7月7日、北京郊外で日中戦争の発端となる盧溝橋事件が勃発しました。

同年8月3日、清水さんは1回目の召集を受けます。その時は約30人が入隊し、口南小学校で壮行式を行いました。

清水さんは12月まで訓練を受けましたが、この時は戦地に行くことなく、除隊となりました。

### 戦地へ

年が明けた昭和13年5月、召集により再び入隊することとなりました。入隊の1カ月前から徐州会戦（江蘇省、山東省、安徽省、河南省の1帯で行われた中国軍との戦闘）が始まり、急ぎよ召集されたものでした。

清水さんはすぐに宇品港に向かい、十分な説明もなく、突然の事で実感もないうちに人々が殺し合う戦地へ赴くこととなりました。

### 刻まれた記憶

取材当初は、「もう記憶が定かでない」と話していた清水さんでしたが、戦争の話をする中で、徐々に当時の記憶が蘇ってきたそうです。

「戦争は恐ろしい。人が殺し合うのだから」「青春時代を戦争の記憶で覆いつくされてしまった」。清水さんの記憶には、戦場で多くの人の死を目の当たりにしたこと、原爆で兄弟を亡くしたことなど、戦争のつらく悲しい経験が、今でも忘れることのできないものとして深く刻まれているのです。

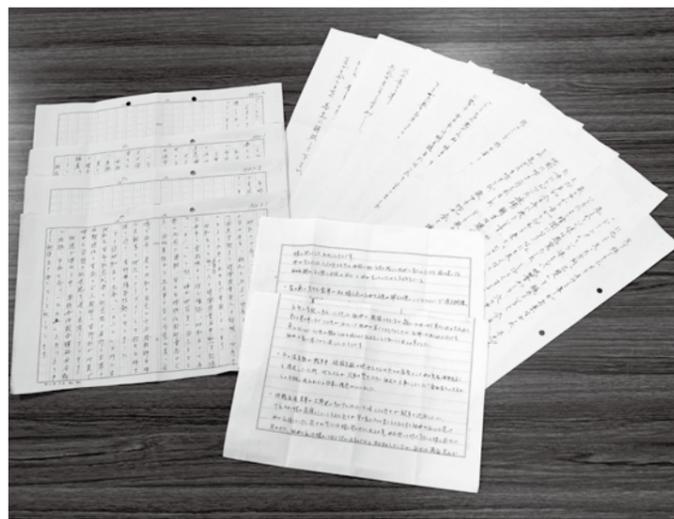
### 次世代へつなぐ

終戦から75年を迎える中、戦争体験者・被爆者の高齢化が進み、当時の様子を知る人が少なくなっています。

今回の特集に先立ち、市は、戦争の悲惨な経験を風化させないように記録し、次世代に受け継いでいくため、戦争や被爆の体験について話していただける方を募集したところ、多くのお話やお手紙をいただきました。

中には、県外から電話でも継続し、戦争に関する伝承の火を消さないように頑張っているというお話を聞きました。

紙面の都合上、全てを紹介することはできませんが、この他、お寄せいただいた戦争や被爆の体験は、市のホームページに掲載するなど、多くの方にご覧いただけるよう情報発信していきます。



市民の皆さんから届いた戦争・被爆体験の手紙

### おわりに

戦争で辛い経験をした人がいることを忘れ、かつての惨禍を二度と繰り返すことがあってはいけません。一人一人が平和について考え、後世に伝えていくことが必要ではないでしょうか。私たちが今「できること」「すべきこと」について、改めて考えてみましょう。

### 生死のはざま

清水さんは、軽機関銃の射手の役割を担っていました。低い姿勢で銃を構え、中国軍に向かって一斉掃射

指揮官に言われるがままに従い突き進んでいったため、清水さんはこれからどこへ行くのか、ここは何となく街なのか、分からなかつたそうです。清水さんは何も知らされず、戦争の惨禍に飲み込まれていきました。

します。ある時、中国軍との戦闘中、清水さんは頭に大きな衝撃を受けました。ヘルメットを見ると、線状に傷跡が残っていたそうです。「斜めから命中したためヘルメットがはじいてくれたが、真つすぐ当たれば頭を貫通していた」清水さんは、常に死と隣り合わせの戦場で戦い続け、多くの仲間を失いました。

清水さんは犠牲者を弔い、遺骨とともに髪の毛や認識票（兵隊に振られた番号を刻印した金属製のバッジ）などの遺品を日本の家族の元へ送還する手配をしたそうです。「自分だっていつこうなるかわからない」家族を思うと胸が締め付けられる思いだったことでしょう。

昭和16年、清水さんは戦闘のさなかで左手を負傷します。現地の野戦病院で手術を受けましたが、十分な治療を受けられるはずもなく、傷口が化膿し発熱を起しました。これが原因となり、日本へ送還されることとなりました。

令和2年度  
**庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典延期のお知らせ**  
8月19日(木)に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期します。  
延期後の日程は、感染症の状況を踏まえ、決まり次第、広報しょうばらや市ホームページなどでお知らせします。  
**問い合わせ**  
社会福祉課障害者福祉係 ☎0824-73-1210

### 庄原市巡回平和パネル展 ～市民が描いた原爆の絵～

8月28日(金)まで、市内3カ所で、恒久平和を祈念して、広島市で被爆した方が自ら描いた絵などを展示します。ぜひご覧ください。

**日程・会場**  
▼8月13日(木)まで  
市役所本庁舎 1階市民ホール

**問い合わせ**  
総務課総務法制係  
☎0824-73-1123

**市民が描いた原爆の絵**  
▼8月14日(金)～20日(木)  
市役所東城支所 1階ホール

▼8月21日(金)～28日(金)  
上高自治振興センター 1階ロビー